



SAFE COMMUNITY TOWADA



交通事故予防対策部会

発表日 令和6年8月6日(火)
発表者 交通事故予防対策部会
部会長 蛭沢 達彦

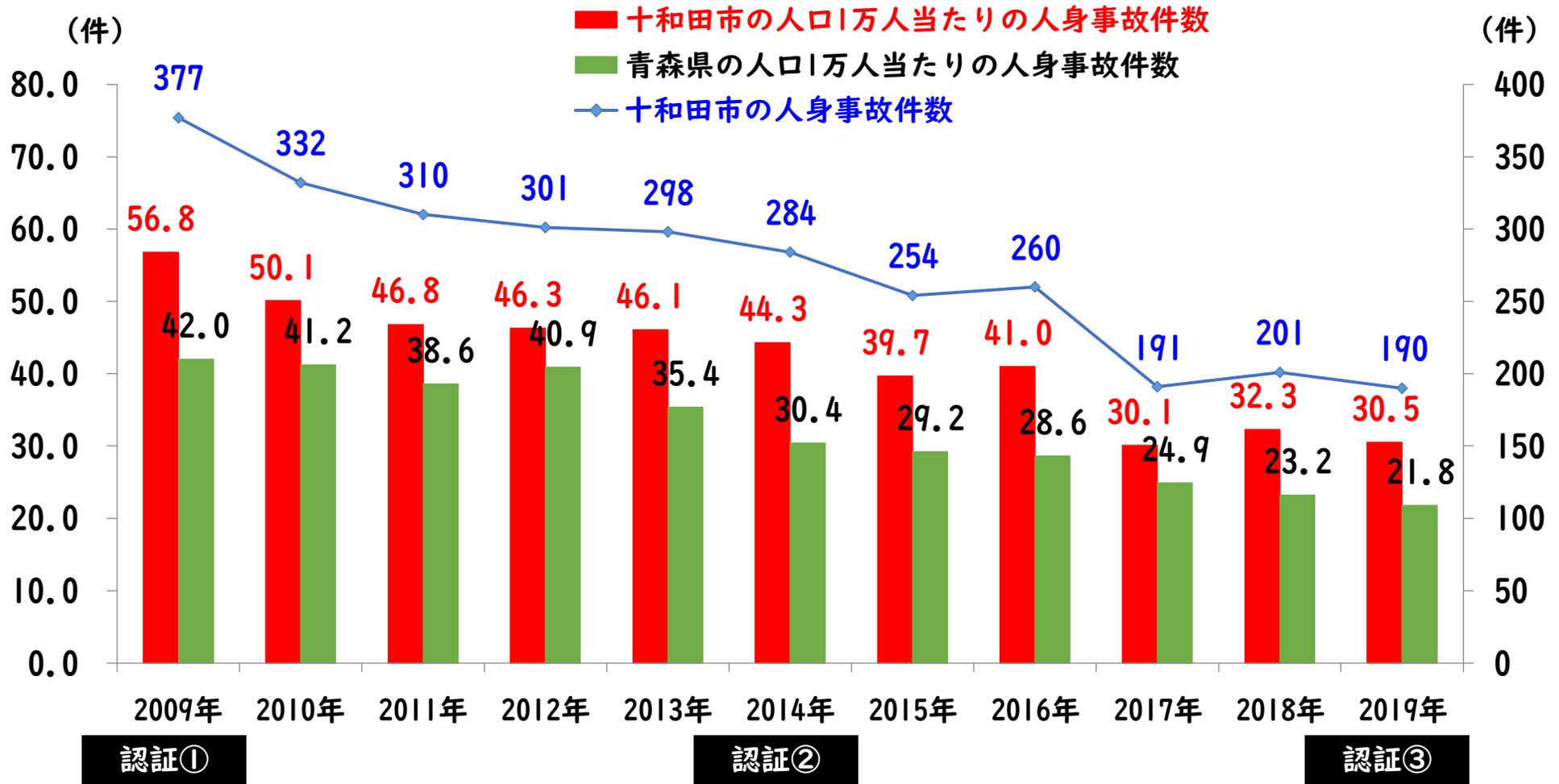
交通事故予防対策部会員

No.	区分	所属
1	行政機関	十和田警察署交通課
2		十和田市土木課
3		十和田市まちづくり支援課
4	関係団体	十和田市地区交通安全協会
5		青森県自転車軽自動車商業協同組合十和田支部
6	市民団体	十和田市町内会連合会
7		十和田市交通安全母の会
8		とわだセーフコミュニティをみんなですすめ隊

設置の背景①

■十和田市は青森県と比べ人身事故の発生する割合が高い

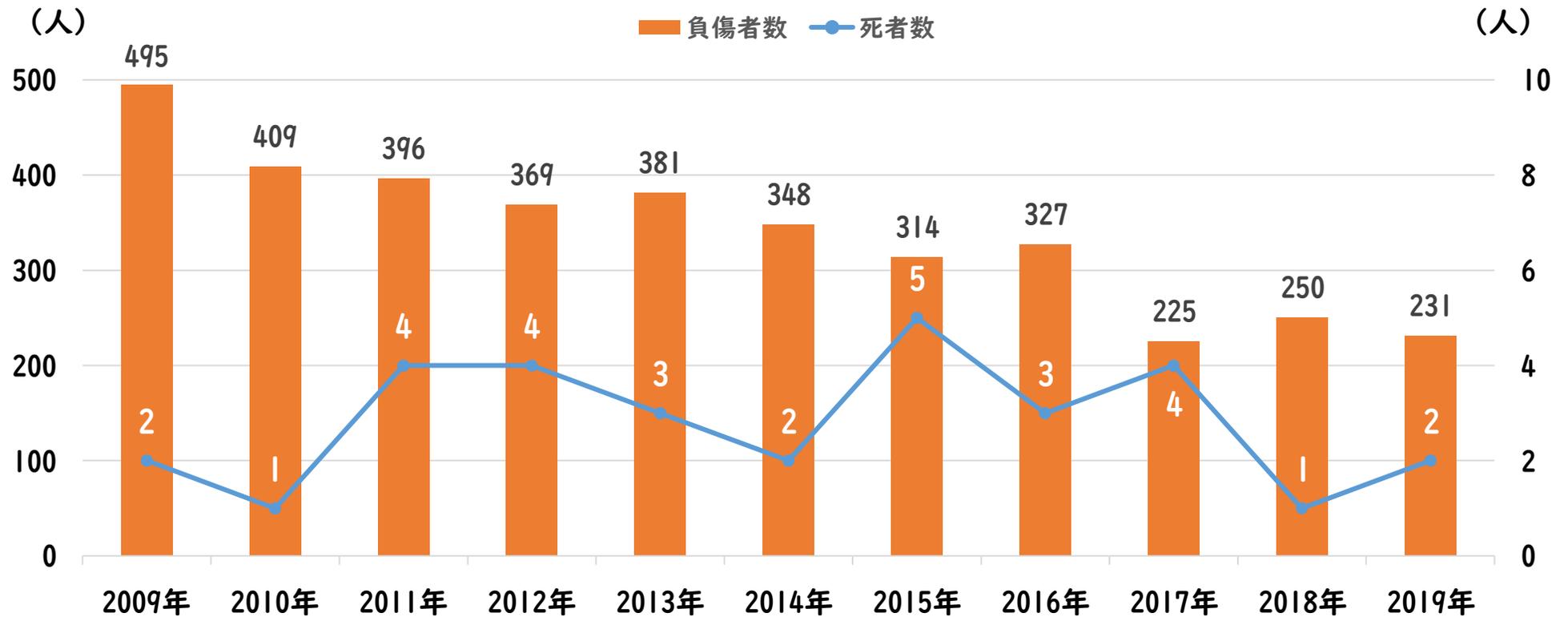
図表Ⅰ 人口1万人対の交通事故件数



設置の背景②

■交通事故発生状況は年々減少傾向にある

図表2 交通事故における死傷者数



データから見る課題①

■人対車が全体の5割以上を占める

図表3 交通事故における死傷数

区分	人対車	車両相互	車両単独	合計
2010-2014	10	1	3	14
2015-2019	5	8	2	15
合計	15	9	5	29

データから見る課題②

■歩行中の交通事故は、高齢者が多い

図表4 歩行中の交通事故で救急搬送された割合 (n=163人)

区分	～19歳	20～44歳	45～64歳	65歳以上
歩行者 (n=75)	12.0%	5.3%	16.0%	66.7%
うち死亡者数			1	7

※中等症以上

データから見る課題③

■薄暮から夜間の時間帯に多い

図表5 十和田市内の時間帯別の高齢歩行者の死傷者数 (n=50人)

時間帯	0～4時	4～8時	8～12時	12～16時	16～20時	20～24時
死者	0	2	1	0	4	0
傷者 (中等症・重症)	0	1	5	10	20	5

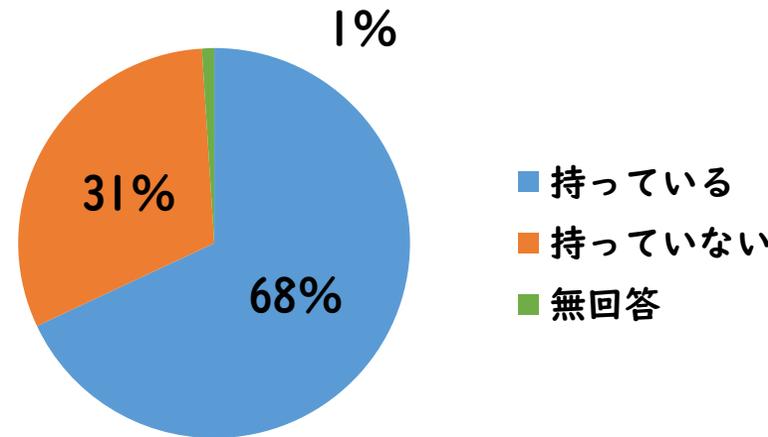
データから見る課題④

新規

■ 暗い時に反射材をつける人が少ない

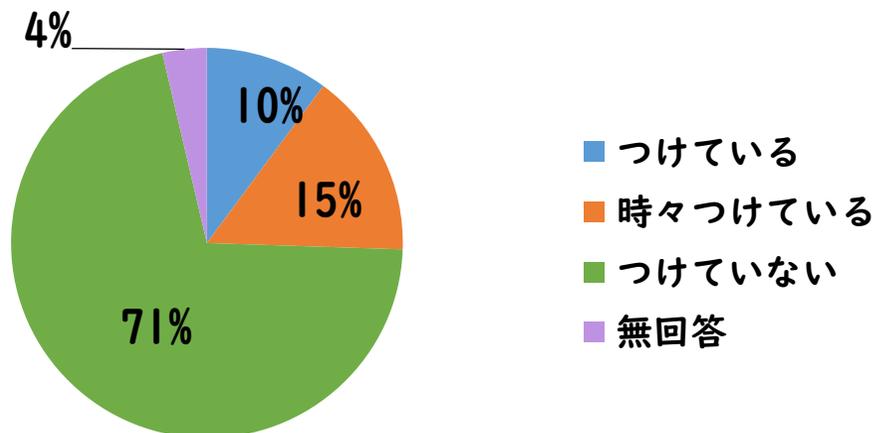
図表6 反射材を持っている人の割合 (n=310)

出典：市民アンケート (2017年公民館まつり来場者)



図表7 暗い時、衣服や持ち物に反射材をつける人の割合 (n=850)

出典：市民アンケート (2020年市民無作為抽出)



つけない理由 (上位3つ)

持っていない	67.1%
必要性を感じない	17.1%
めんどくさい	9.64%

データから見る課題⑤

■交差点での交通事故が5割を占めている

図表8 十和田市内の道路形状別の事故状況

区分	交差点	交差点 付近	単路 (カーブ)	橋	単路 (その他)	その他
件数割合	49.4%	8.4%	3.9%	0.4%	33.8%	4.0%

※ その他は、駐車場内での事故等

データから見る課題⑥

■ 市内の道路事情

○市内
基盤の目状の交差点



○郊外
田園内の東西南北の見通しの良い交差点



■ 交差点事故発生要因の特徴

○信号機のある交差点 → 信号無視

○信号機のない交差点 → 一時不停止、前方不注視

課題と部会の取り組み

課題	部会の取り組み
<p>課題 1 反射材をつける人が少ない中、歩行中の事故の多くは高齢者で、時間帯は薄暮から夜間に発生している (図表 3、4、5、6、7)</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 反射材利用の促進
<p>課題 2 交差点での事故が多い (図表 8)</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 道路安全診断と対策・ 事故多発交差点の周知

課題①に対するレベル別対策

課題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
反射材をつける人が少ない中、歩行中の事故の多くは高齢者で、薄暮から夜間に発生している	啓発支援	<ul style="list-style-type: none"> ・青森県交通災害見舞（共済）制度 ・反射材啓発ポスターの配布 ・全国交通安全運動 ・青森県交通安全県民運動 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者宅を中心とする戸別訪問による反射材配布 ・各種イベントにおける反射材配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全運動総決起大会 ・ドライバーへの街頭キャンペーン ・高齢者宅を中心とする戸別訪問での反射材配布
	規則・罰則	<ul style="list-style-type: none"> ・無灯火運転の取り締まり 		
	環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・青森県交通安全実施計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・横断歩道用照明灯の設置 	

【対策部会の関わり】
 ・反射材着用の呼びかけと反射材配布

課題②に対するレベル別対策

課題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
交差点での事故が多い	啓発支援	<ul style="list-style-type: none"> ・全国交通安全運動 ・青森県交通安全県民運動 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全週間の懸垂幕の設置 ・市公用車による交差点での一時停止の呼びかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室 ・秋まつりパレードでの交通安全呼びかけ ・ドライバーへの街頭キャンペーン
	規則・罰則	<ul style="list-style-type: none"> ・一時不停止の取締り(道路交通法) 		
	環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・信号機の設置 ・標識の設置 ・ゾーン30の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路カラー舗装 ・交差点内の注意喚起の表示 ・コリジョンコース防止ポールの設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・のぼり旗の設置 ・通学路交差点の見守り

【対策部会の関わり】 ①②

【対策部会の関わり】 ①②

【対策部会の関わり】
 ①交通事故多発交差点での道路安全診断と対策 ②交通事故多発交差点の周知

課題①に対する対策事例

課題

反射材をつける人が少ない中、歩行中の事故の多くは高齢者で、時間帯は薄暮から夜間に発生している

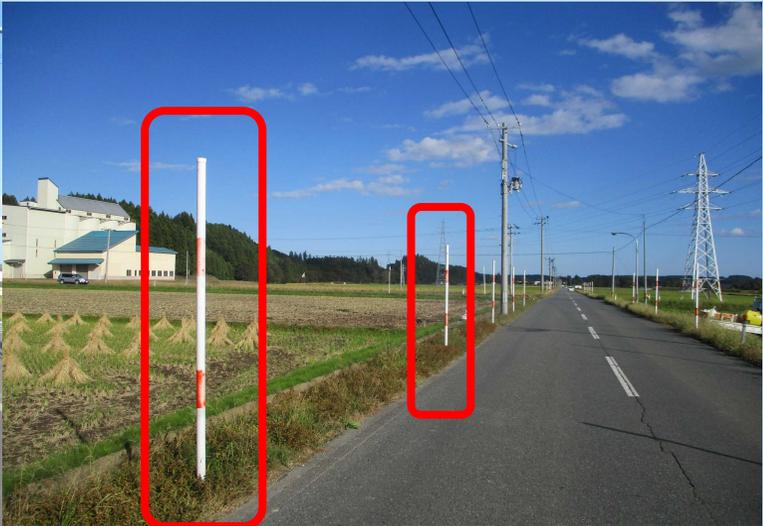
■事故多発地域における高齢者宅を戸別訪問して反射材を配布（市、警察及び市民団体）

対策事例



課題②に対する対策事例(1)

■課題に対するレベル別の対策事例

課 題	交差点での事故が多い
対策事例	<ul style="list-style-type: none">■交差点におけるカラー舗装■コリジョンコース現象防止のポールを設置
	<p style="text-align: center;">A B</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"></div> <p>Figure A shows an intersection with a red-paved stop line (止まれ) and a yellow bollard. Figure B shows a road with two white poles with red bands, which are collision course poles, installed along the roadside.</p>

課題②に対する対策事例(2)

■課題に対するレベル別の対策事例

課 題	交差点での事故が多い
対策事例	<p>■一時停止ステッカーの作成・配布(2022, 2023)</p> <p>全市公用車にステッカーを取付けしたほか、事業者や希望する市民にステッカーを配布し、「横断歩道は歩行者優先」の啓発に取り組んでいます</p>  

プログラムの運営状況

区分	進行状況				
	2019年 認証	2020年	2021年	2022年	2023年
①反射材の利用促進プログラム	継続 ・反射材の配布 (毎年)				
②交差点事故対策プログラム	継続			・事故多発交差点の広報	・事故多発交差点における道路交通診断と対策

① 反射材の利用推進プログラム

課題	反射材をつける人が少ない中、歩行中の事故の多くは高齢者で、時間帯は薄暮から夜間に発生している	
目標	①歩行中の死亡事故件数を減らす ②暗い時に反射材を着ける人を増やす	
内容等	交通事故の注意喚起や反射材の普及啓発を行う	
	【対象】	①高齢者 ②全市民
(短期) 認識や知識の変化	【指標】 衣類や持ち物に反射材を着けている人の割合	【測定】 市民アンケート
(中期) 態度や行動の変化		
(長期) 状態や状況の変化	【指標】 歩行中の死亡・重傷事故件数	【測定】 十和田警察署

プログラム活動内容①

■狂犬病予防接種時における反射材の配布（2023）【新規】

犬の散歩をする人は、早朝や夕方に多いことから、市で毎年春に実施している狂犬病予防接種時に反射材を配布しました

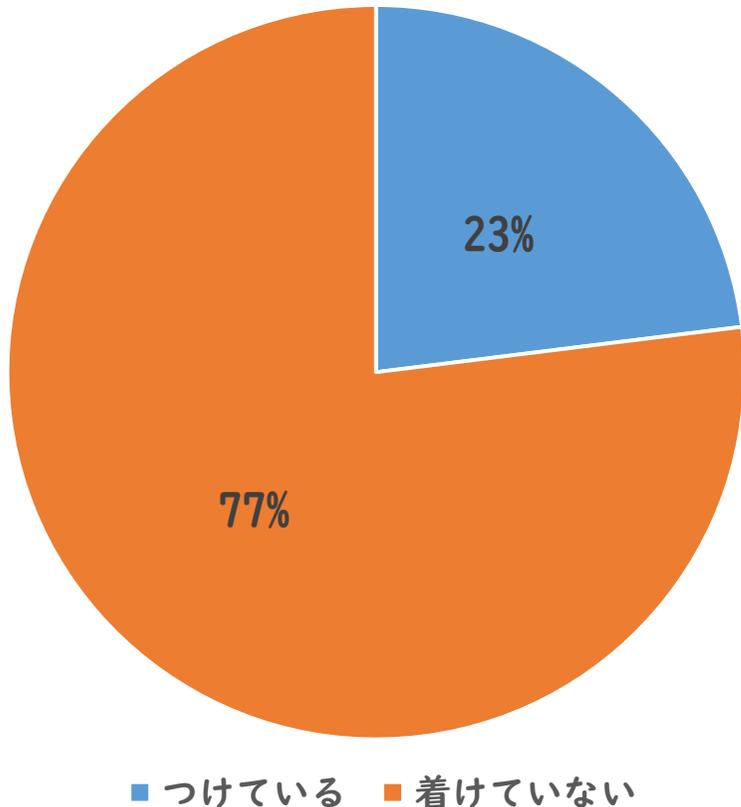
予防接種に訪れた市民のうち、反射材を持っていない300人に配布しました



プログラム活動内容②

■ 狂犬病予防接種時における反射材の普及啓発【新規】

図表9 散歩時に反射材をつけてる人の割合 (n=152)



つけない理由	回答者数 (複数可)
反射材を持っていない	99人
夜暗くなると散歩しない	34人
車が通らない場所で散歩する	6人
その他 (必要性を感じない)	1人



活動の成果	回答者数
今後は反射材をつけますか?	110人
交通安全の意識が高まったか	128人

反射材を着用する人を増やすことができ、交通意識も高めることができた

プログラム活動内容③

■ 全国交通安全運動時にイベントを企画（2023）【新規】

2023年秋の全国交通安全運動の初日に、当部会が企画してミニコンサートを開催
出演した園児や来場者に反射材の配布や交通安全への意識啓発を行った



プログラム活動評価①

■反射材を持っている人を増やさなければならない

図表10 反射材の着用に関するアンケート

アンケート項目	2020年 (n=850)	2021年 (n=837)	2023年 (n=766)
衣類や持ち物に反射材をつけている人	25.5%	22.0%	21.0%
(反射材をつけない理由)	(n=633)	(n=643)	(n=573)
反射材を持っていない	67.1%	70.0%	66.3%
必要性を感じない	17.1%	20.1%	25.7%
面倒くさい	9.64%	7.8%	10.5%
恥ずかしい	2.21%	2.9%	2.4%

プログラム活動評価②

■2022年は歩行者の死亡はゼロ、高齢歩行者の件数も1件

図表11 歩行中の交通事故における歩行者の死亡・重傷者数

区分	2019年 認証③	2020年	2021年	2022年	2023年
歩行者（人） ※上段：死者 下段：重傷者	1	1	1	0	1
	19	5	18	10	2
高齢歩行者（人） （17時～5時の夜間）	3	5	7	1	3

②交差点事故対策プログラム

課題	交差点での事故が多い	
目標	交差点での自動車による交通事故件数を減らす	
内容等	事故が多発している交差点の周知をする	
	【対象】	人身事故の多い交差点
	【活動】	事故多発交差点の周知 道路安全診断と対策
(短期指標) 認識や知識の変化	人身事故多発交差点の数	【測定】 十和田警察署調べ
(中期指標) 態度や行動の変化	指定交差点への対策箇所数	【測定】 十和田警察署調べ
(長期指標) 状態や状況の変化	指定交差点の交通事故件数	【測定】 十和田警察署調べ

プログラム活動内容①

■ 交通事故多発交差点の広報掲載

十和田市広報紙「広報とわだ2022年9月号」にて、交通事故多発交差点を掲載し、市民に周知しました

【発行部数：27,700部】

● 部会からの意見で、

新たに事故原因を掲載

- ・ 信号無視
- ・ 一時不停止及び前方不注視

注意 交通事故多発交差点をお知らせします

市内で発生している交通事故の多発地点をお知らせします。通行の際は注意しましょう。また、最も多い交通事故は車同士の出会い頭の衝突によるものです。ドライバーの皆さんは、交通ルールやマナーを守り、安全運転を心掛けましょう。

交通事故の主な原因 TOP3

- ◇ 信号無視
- ◇ 信号機がない交差点での一時不停止
- ◇ 前方不注視による追突

交差点衝突注意 **B** 市内の交通事故多発交差点

ひがしの団地付近 (前谷地構付近) 16件

ファミリーマート 十和田一本木沢店前 10件

のつき内科小児科クリニック前 10件

ファミリーマート 十和田バイパス店前 9件

三光ボルト前 12件

ファミリーマート 十和田バイパス店前 12件

御丸善クリーニング前 9件

JA十和田おいらせ 9件 中央カントリーエレベーター前

かまもと前 10件

三本木小学校西側 10件

平成29年～令和3年の交通事故件数をもとに作成しています。

ローソン 十和田バイパス店前 9件

飛び出し

おそび運転

8 広報 とわだ 2022年(令和4年)9月号

プログラム活動内容②

■前回到引き続き掲載された3つの交差点への対応（警察・市）

図表12 事故件数の比較、カラー舗装の有無、取組の状況

交差点	事故件数		カラー舗装	現在の状況
	[2012-2017]	[2017-2021]		
Ⓐ	32	12	2014年に実施済み	・2021年に信号機が設置され、信号機設置後は事故1件
Ⓑ	19	16	2014年に実施済み	・防犯カメラ設置（2022年） ・道路の拡張工事が決定（着工は2025年を予定）
Ⓒ	11	10	未実施	・主に信号無視による事故 ・2023年は交通事故無

プログラム活動内容③

■ 5年間（2018～2022年）で交通事故が多い交差点への対応

2023年10月、部会で道路安全診断を実施し、対策を検討

11月中に市道路管理担当課が対策を実施

① 事故件数：14件（市内最多） ⇒道路上に**クロスマーク**を舗装



クロスマークは他の2交差点にも舗装

プログラム活動内容④

㊦ 事故件数：11件（市内2番目）⇒ **コリジョンコース現象**

対策ポールの設置



プログラム活動内容⑤

■ 高齢者運転免許証 自主返納支援事業



■ 高齢者への 市街地循環バス利用促進



プログラム活動評価①

■交通事故の多い交差点を中心に対策を実施している

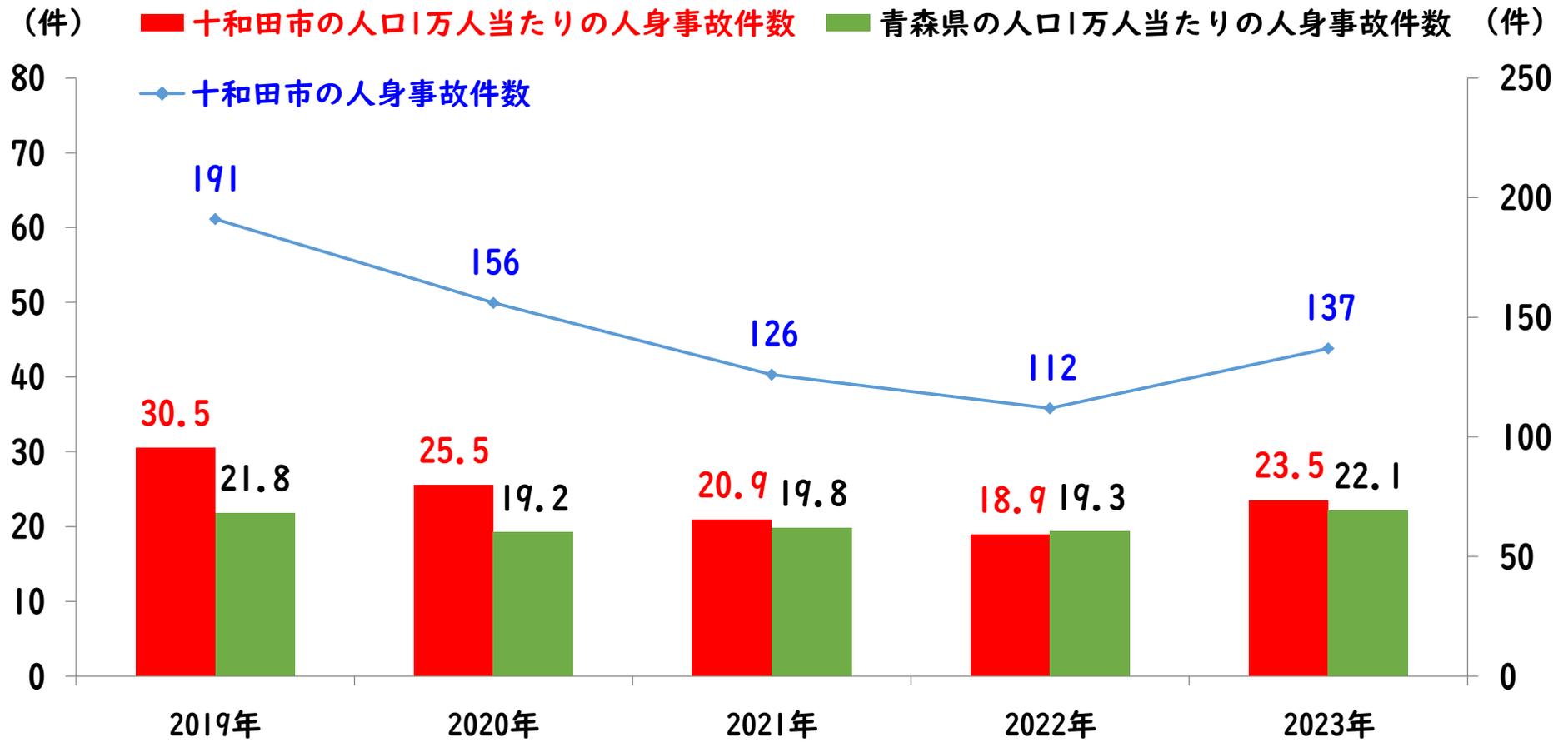
図表13 交通事故発生状況（短期・中期・長期）

区分	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
人身事故 交差点 (短期)	6箇所	10箇所	8箇所	6箇所	6箇所
対策 (中期)	—	1箇所 信号機設置 (1機)	2箇所 防犯カメラ設置 (2台)	1箇所 防犯カメラ設置 (1台)	クロスマーク表示 コリジョン現象 対策ポール設置
交通事故件数 (長期)	7件	21件	9件	11件	12件

プログラム活動評価②

■交通事故件数は年々減少し、2022年は青森県を下回る

図表14 人口1万人対の交通事故件数

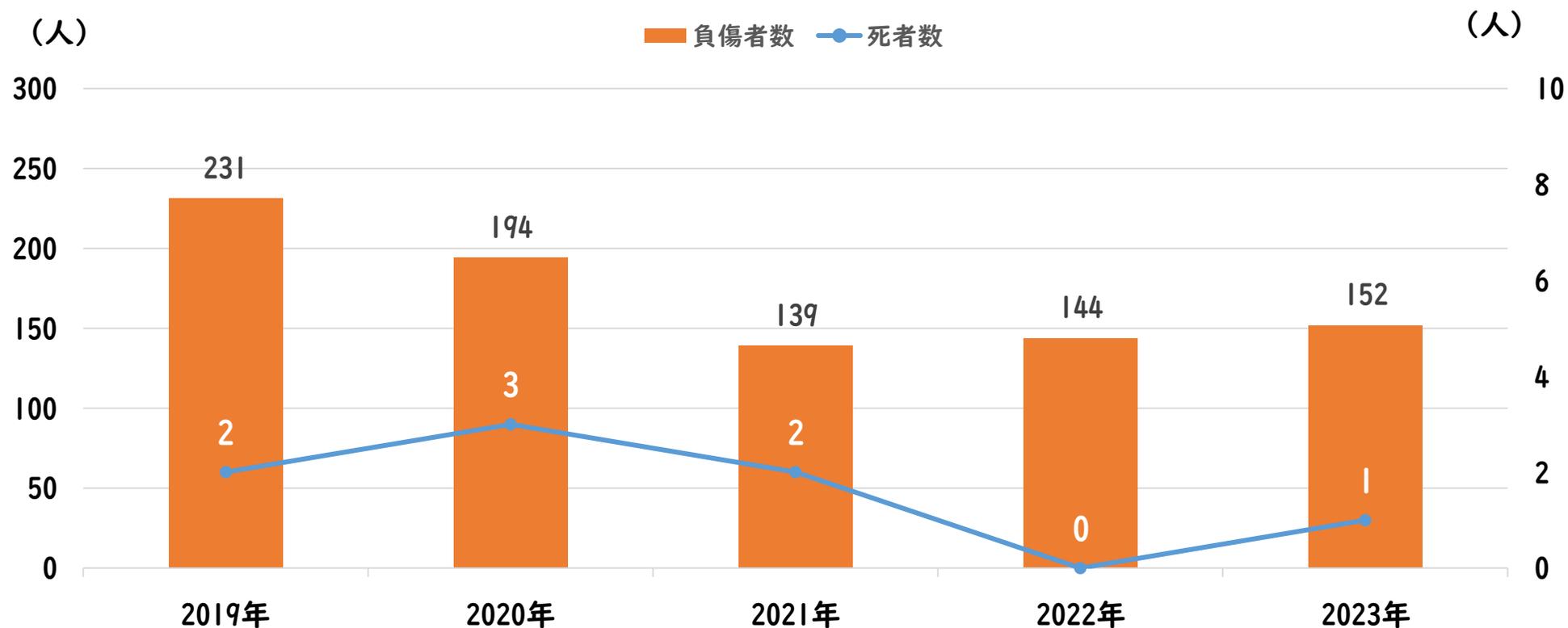


認証③

プログラム活動評価③

■ 負傷者は減少傾向で2022年は死亡者が0人

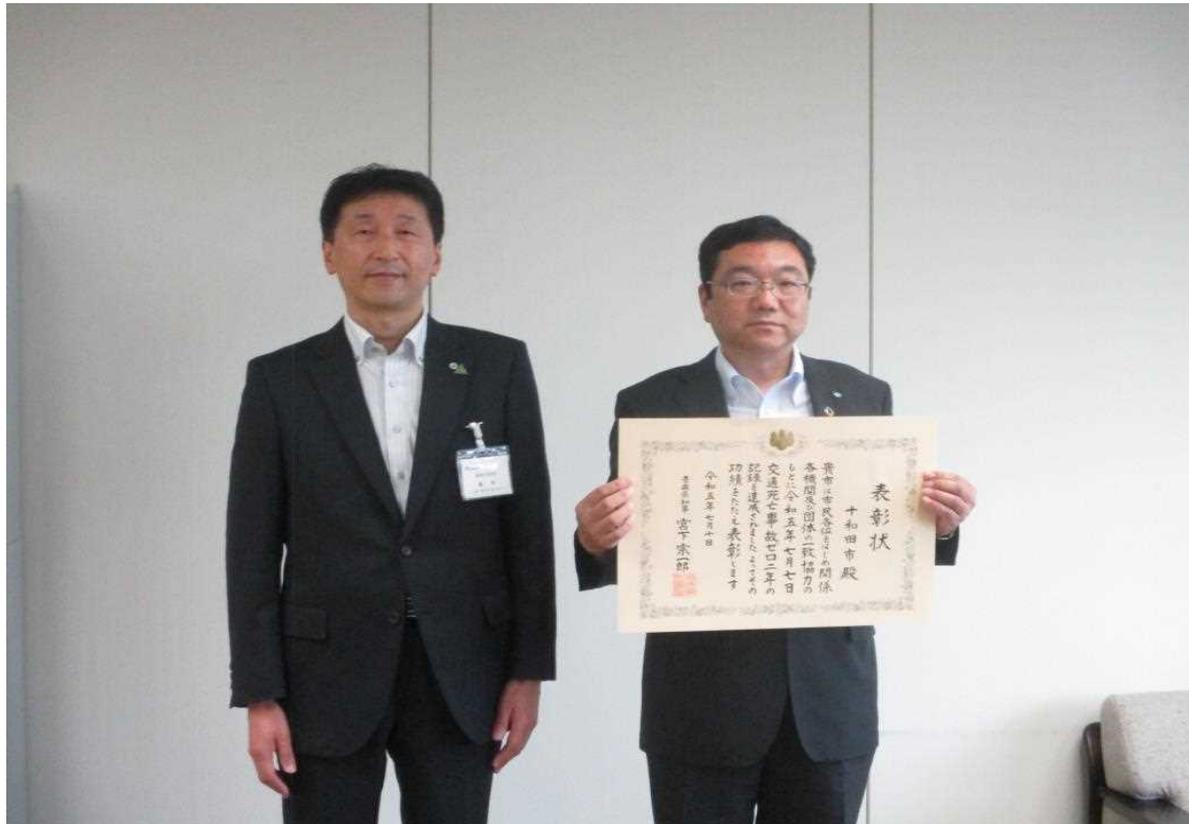
図表15 交通事故における死傷者数



交通死亡事故ゼロ2年を達成

■2021年7月6日に発生した交通死亡事故以降、市内では交通死亡事故は発生しておらず、2023年7月7日に青森県知事より表彰されました。

※交通事故統計における死亡とは、交通事故発生から24時間以内に亡くなった場合をいう。



取り組みによる気付きや変化

●人身事故発生率

- ・ 2009年 40市町村中40位(ワースト1位)
- ・ 2022年 40市町村中29位

に改善され、当市の交通事故予防に対する意識が高まっている

●対策部会をとおして、統計やデータを確認し、**情報共有**することで、関係機関、団体との**情報交換、連携**が図られイベントの企画など活発な啓発活動につながっている

今後の取組み課題

●課題 1

反射材の着用率が低いので、多角的に幅広い年齢層に配布し、反射材の必要性を訴えていくことが重要である

●課題 2

交差点での事故発生率がいまだに高いので、危険交差点を周知するため、効果的な広報を継続していく必要がある

今後の計画①

2024年	2025年	2026年	2027年	2028年
<p>①反射材の利用促進プログラム 【継続】 反射材の配布・啓発活動</p>				
<p>②交差点事故対策プログラム 【継続・拡大】 危険交差点の周知活動 道路安全診断と対策 交通事故減少による経済効果の把握</p>				

今後の計画②

内閣府「地域提案型交通安全支援事業」を活用し、2024年10月20日（日）に交通安全啓発イベントを開催。

- スケアード・ストレート（スタントマンによる事故体験）
- 県警・JAFによる安全体験シュミレーター
- セーフコミュニティ各部会の広報啓発活動 など

市内外へ広くSCの取り組みをアピール！！



ご清聴ありがとうございました

今日も無事でいてほしい



十和田市セーフコミュニティ推進マーク

- 「十」 十和田市の安全な街並み、
- 「和」 美しい郷土・十和田湖と紅葉、
- 「田」 人々の協働・交流・絆を表現